

3 調査結果の分析・活用について②（学級担任用）

事務連絡（令和3年8月2日付け）再掲

学級担任用

令和3年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各学級担任の先生方にも調査結果から、①学級の児童生徒の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといった確かな学力の育成に向けたPDCAサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、学級担任の先生方に向けた分析・活用の例を作成しました。学級担任の先生方が本調査から児童生徒の実態を多面的に把握し、個に応じた指導の充実につながるよう御活用ください。

分析・活用の手順

分析

○ 児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

→【帳票40】

- ・ 学年、学級の児童生徒一人一人の学力レベル、伸び、学習方略、非認知の値が一覧で示されています。
- ・ 児童生徒一人一人の学力の伸び等の値を県平均や学年平均、学級平均と比較したり、昨年度との変化量を見たりして、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考え）児童生徒を確認します。

活用

○ 気になる児童生徒に対して、どのような手立てや方策をとるか考える。

- ・ 気になる児童生徒の要因分析等をして、支援の仕方を学年等で検討し、効果的な手立てや方策などの取組を模索します。

参考

色付け等をする、児童生徒一人一人の実態が分析しやすくなります。

- ・ 【帳票40】のデータをコピー＆ペーストすることで、色付けができるファイルを添付してあります。必要に応じて御活用ください。

埼玉県教育委員会

【帳票40】を活用した分析

分析

児童生徒一人一人の状態を学力の伸び等から把握する。

- 【帳票40】「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」から児童生徒一人一人の状態を捉える。

40

令和3年度埼玉県学力・学習状況調査（小学校5年生）
学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別
〇〇市立〇〇小学校

縦に見ることで、伸びや変化量から気になる児童生徒を見つけられることができる。

学年	性別	国語					算数・数学					学習方略					非認知能力										
		R2-R3	R2-R1	R1-R0	R2-R3	R2-R1	R1-R0	R2-R3	R2-R1	R1-R0	R2-R3	R2-R1	R1-R0	R2-R3	R2-R1	R1-R0	R2-R3	R2-R1	R1-R0								
市立〇〇小	男	7-C	4	5-A	6-C	2	5-B	0.0	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-	-	4.1	3.2	3.3	3.3	3.1	3.9	3.8	2.6	-	-
市立〇〇小	女	6-A	3	5-A	6-C	2	5-B	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	0.0	-	-	4.0	3.4	3.5	3.4	2.9	3.9	4.0	2.7	-	-
埼玉〇〇小	男	6-A	3	5-A	6-C	2	5-B	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.1	0.0	0.0	-	-	4.0	3.4	3.5	3.3	2.9	3.8	4.0	2.8	-	-
埼玉〇〇小	女	6-A	3	5-A	5-A	1	5-B	0.5	0.3	2.0	0.8	0.3	0.5	0.8	0.4	-	-	4.2	4.3	4.4	3.9	2.4	4.6	4.5	3.5	-	-
埼玉〇〇小	男	7-C	0	7-C	5-A	-2	6-B	0.0	0.0	-1.3	-0.8	1.0	0.3	0.3	0.8	-	-	4.2	4.0	3.2	3.1	4.2	4.1	4.0	3.0	-	-
埼玉〇〇小	女	7-B	4	6-C	5-B	0	5-B	0.0	0.3	0.0	0.3	-0.3	0.0	0.0	-0.6	-	-	4.3	4.5	4.2	4.1	2.9	4.4	4.3	2.6	-	-

横に見ることで、気になる（学力や学習方略、非認知能力の数値に課題があると考える）児童生徒の学力レベル・伸び・学習方略・非認知の状況が把握できる。

【分析】学力レベル・伸び・学習方略・非認知の数値から気になる児童生徒を見付けたり、状態を把握したりする。

- 【例】
- ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学力レベルが国語（算数または両教科とも）で、大きく伸びた（伸び悩んだ）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力が、県平均より高い（低い）児童生徒がいる。
 - ・ 学習方略や非認知能力の変化量が、大きい児童生徒がいる。

【活用】分析で把握した気になる児童生徒が、そのような状態になっている要因等について吟味し、支援する。

- 【例】
- ・ 先生御自身の経験から、普段の授業の様子で把握していた実態と県学調の結果で見られた数値を比較して要因等について吟味する。
 - ・ 学力に課題がある数名の児童生徒をピックアップし、学習方略や非認知能力の数値を確認し、要因等について吟味する。
 - ・ 学力等を順調に伸ばしている教員や教科指導で大きく成果を上げている教員の効果的な取組を共有する。
 - ・ 過去に県が取り組んだ学力向上事業や県学調の報告書、県学調活用リーフレットに書かれている事例を参考にして課題に応じて取り組んでみる。

【重要】
昨年度との
変更点

主体的・対話的で深い学びの実施状況に係る項目名の変更

項目名	令和2年度まで	令和3年度から
アクティブ・ラーニングの実施	4.1	主・対・深の実施
柔軟的方略	3.7	柔軟的方略
意識(生徒)	-0.3	意識(生徒)
	-0.2	

令和2年度まで「アクティブ・ラーニングの実施」と表記していた項目名を「主・対・深の実施」と変更しました。これまで以上に先生方の授業改善の助けとなるような質問項目とするために新たな10項目に変更しました。【帳票10】で『主体的な学び』『対話的な学び』『深い学び』に係る児童生徒の状況を確認できます。

【参考】以下の実施マニュアルにしたがって、帳票40を色付けすると状況が見やすくなります。

ビフォー（色付け前）

アフター（色付け後）



埼玉県学力学習状況調査 帳票40色分けアレンジ 実施マニュアル

1 Excel シート【帳票 40 コピー】を開く。



2 分析したい帳票 40（原本）を開く。

① 赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ コピー

3 1 で開いた Excel シート【帳票 40 コピー】を開く。

赤い四角①で囲んだ部分をクリックして全選択 ⇒ 貼り付け

4 シート【クラス名簿コピー】にクラス名簿（学校保管）をコピーする。



5 印刷帳票に反映される。

※出席番号の重複・未記入等で反映にずれが生じる可能性あり。

⇒対応策：貼り付けたシート【帳票 40 コピー】で直接確認して修正してください。

② 印刷帳票①

6 印刷ボタン（赤い四角①で囲んだ部分）をクリックすることで印刷可能です。

4 まずは、この帳票から！

事務連絡（令和3年8月2日付け）再掲

学校担当者用

令和3年度埼玉県学力・学習状況調査

まずは、この帳票から！



本シートでは、各学校における分析等が効率的且つ円滑に行えるように、活用をおすすめする帳票を4つ紹介しています。是非、参考にしてください。

学級担任の先生におすすめ！ → 帳票40

一人一人の様々な結果データの一覧です。学年、学級ごとにデータがまとめられています！

学年主任の先生におすすめ！ → 帳票28

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

グラフ化

教科担当の先生におすすめ！ → 帳票09

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無回答率や難易度について知ることができます。

※上記帳票28においてグラフ化する前の数値です。

今後の学校の取組におすすめ！ → 帳票33

学力を伸ばした児童生徒の割合、学力レベルの伸びの平均が分かります。「よい取組」等を共有するきっかけづくりとなります。

埼玉県教育委員会